

鬼は外～、福は内～!!

2月3日は節分の日、中協通所リハビリ室では、3日と4日に豆まきを行いました。室長をはじめ赤鬼、青鬼、黄鬼に扮した職員が登場すると利用者の方も大喜び!職場体験で来ていた中学生3人も加わり、豆の代わりに利用者手作りのお手玉を日頃のストレス発散とばかりに「鬼は外、福は内」おもいきり投げつけていました。

通所職員も「これで今年も福がくるね～」と話しながら「一番の鬼は室長だね～」と言ったと言わなかったとか・・・笑

通所リハビリ室 稲福富士枝



研修医木村嵩之先生からの報告

今年の研修は地域医療で始まりました。今回の研修は一年の幕開けに相応しく、今年の自分の医師としての立場や目標を明確にしてくれるものとなりました。その、きっかけとなった事を4つあげたいと思います(思い出に残っている研修でもあります)。

No1: アルコール依存症の患者さんの入院管理。医学的にはやることは無いが、これを病気ととらえると、断酒会参加促進や本人のやる気をそがないで専門病院へつなげるか。1対1の人間としてのつながり、信頼感が大切であることを学びました。これはどの患者さんに対しても応用ができる事と思います。

No2: 往診。ほとんどが施設の患者さんということにびっくりしました。何件か自宅も訪問しましたがその人の生き様がより明確にわかるので入り込みやすかったですし、コミュニケーションの上でも大切でした。

No3: 看取り医療。犬尾先生が何とか自宅に帰そうとしていました。最初は何で・・・?と思いましたが、自宅に帰った患者さんの安心そうな顔と家族の笑顔、それから一時持ち直す体力を復活させることに成功と納得の医療であり、自分の今後の医療の1つの選択肢となると思います。人間らしく生き、人間らしく死ぬ事を学びました。また、犬尾先生が何かと写真撮っていて何でかな?と置いていたのですがそれをその場にいない家族に見せるとみんなどれどれと興味を示されます。自分の家族だったらやっぱり自分もみたいものです。今まで相手の気持ちを考える事を忘れていた気がして再確認できました。

No4: 与儀先生の中協紹介。これは、単なる紹介ではありませんでした。今後の病院の機能分化について、どこでも教えてはくれなかった事です。病院としての立ち位置を明確にすることは医師としての立ち位置を明確にすることでもあります。大変勉強になりました。今後も重要な事と感じました。「虫の目、鳥の目、魚の目」という言葉は何においても大切で入院管理にしても病院経営にしてもです。視点を望遠鏡のように倍率を変えて物事を見ることが大切だとわかりました。

以上、簡単ではありますが研修内容のご報告としたいと思います。1ヶ月間ありがとうございました。

虹の箱より皆様からのご意見・ご要望

面会のため、2階病棟へ行く際に階段を利用しましたが、病棟の入口に柵があり、自分で開けていいのかどうかの表示が何も無く、困りました。表示をした方が親切だと思います。

ご返事

貴重なご意見ありがとうございました。

病棟へつながる階段には、入院患者さまの転落防止や車椅子で誤って落下しないよう柵を設置しています。外から入ることを制限している柵ではございませんので、鍵を開けてお入りになり、必ず施錠をお願いします。

現在、柵の近くにも掲示しております。

事務次長 平良雄一郎



リハビリ室より

最近テレビのダイエット番組でも見る機会が増えたドローイン（お腹をへこます運動）ですが、皆さん知っていますか？スポーツやダンスをされている方は感じていると思いますが、体幹（上半身）が安定している、手足は動かしやすくなります。今回、私たちは、実際にお腹周りの筋肉トレーニングをする事で、動きがどう変わるのか検証しています。

方法としては、まず片あし立ちを保てる時間や早歩き速度、呼吸機能検査などを測定。そして、ドローインを自主トレーニングで6週間行ってもらい、トレーニングの前後でどのように変化するのか確認しているところです。現段階では測定途中であり、私たちの思い描く結果が出せるか分かりませんが、少しでも今後のリハビリに繋がる研究になるよう、頑張っていきたいと思えます。また、学術大会などでの発表も検討しております。

研究にご協力して下さっている中部協同病院スタッフの皆様、お忙しい中、本当にありがとうございました。

リハビリ室 理学療法士 大湾翔太・島真紀・玉城明子

2階病棟紹介

2階病棟は内科・整形外科の混合病棟です。個室が3部屋あり、インフルエンザやノロウイルスなど、感染症の患者さんの受け入れを主に行っています。その他の病室は地域包括ケア病床の届をしています。

他の病院で手術を受けた後、在宅復帰に向けたリハビリを行う患者さんや、施設入所中で具合を悪くした高齢の患者さんなど、様々な方が入院されます。その殆どの患者さんはリハビリを行っており、生活の中で何らかの介助が必要となります。少しでも現状より体調が回復するように看護師・看護補助者・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が協力して患者さんの安全に留意をしながら機能回復に向けた看護を行っています。

2階病棟 看護師長 屋比久亜弓



胸を張って

おしりの穴をしめるように



へそを中心に腹全体を凹ませる感じで



背筋はまっすぐ